

曲線で配管された電力用管路内部からの部分的補修工法の適用事例

キーワード

電力用管路, 管路更生, 管路研磨, 小口径, 部分的補修, 管内補修



小貫 勝彦
ONUKI Katsuhiko

東京電力㈱ 多摩支店設備部
地中送電技術グループ管路担当課長



北原 正博
KITAHARA Masahiro

ハザマ・関電工
共同企業体 現場代理人



高野 浩治
TAKANO Koji

東亜グラウト工業㈱
管路メンテグループ 工事部長

1. はじめに

東京電力㈱の地中送電用設備の建設は、東京オリンピックを控えた昭和30年代後半から首都圏の電力需要に対応させるために随時推進してきた。その結果、現在までに洞道設備量は、亘長約420km、管路設備量は亘長約2,700km、MH設備量は亘長約140kmにまで達している。これらのうち地中送電用管路設備は、埋設位置における地下水の低下に伴う地盤の変状（沈下）や設備の経年劣化等に伴い、管体の損傷、継手部の段差等の発生、近接施工等による地盤改良材の流入による管内閉塞などの事象が一部の既設設備において確認されている。

非開削による管路更生工法は、既設管路の線形、管

種、内径、施工条件、施工性能および要求性能等から、研磨方法や内面補修方法を選定し、最適な工法で設備維持更新を実施している。本稿では、複合曲線で



写真-2 事前調査結果概要 (その2: JR線より南側)

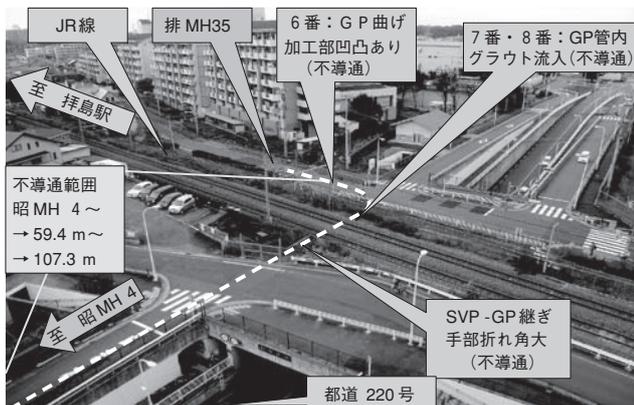


写真-1 事前調査結果概要 (その1: 鳥瞰)



写真-3 事前調査結果概要 (その3: JR線より北側)